

さいたま市長 9月定例記者会見

平成29年9月21日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社のNHKさん、進行をよろしく願いいたします。

○ NHK よろしく申し上げます。9月の幹事社です。NHKと申します。
それでは、本日の記者会見内容につきまして市長から発表をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
先週、平成30年度の予算編成方針を発表いたしました。本市が「首都圏広域地方計画」で東日本の対流拠点と位置付けられたことから、今後更なる成長が見込まれている中で、財政需要の大幅な拡大などにより、非常に厳しい財政運営が見込まれております。本市の重要な計画を確実に実施していくため、事業の費用対効果の検証、緊急度、優先順位付けを徹底し、持続可能な財政運営を進めてまいります。

それでは、本日の議題に移らせていただきます。

市長発表：議題1「さいたま市文化賞・市政功労賞・市長特別賞の受賞者が決定しました」

まず初めに、議題1「さいたま市文化賞、市政功労賞、市長特別賞の受賞者が決定しました」について説明いたします。

さいたま市では、文化芸術またはスポーツの分野におきまして顕著な功績のあった市民、または市にゆかりのある方に対しまして、「さいたま市文化賞」を贈呈しております。平成16年から実施いたしまして、今年度で14回目となります。昨年度までに40名の受賞者がおりますが、旧市での受賞者も53名おります。

今年度は、1名の方に贈呈いたします。今年度の受賞者は、洋画家の根岸右司さんでございます。根岸右司さんは、洋画家、渡邊武夫氏のもとで画業の研さんを積まれ、これまでに光風会記念賞、また日展特選、日展内閣総理大臣賞など各賞を受賞されました。現在は、日展理事、また光風会

常務理事を務めておられます。

地域では、県立浦和高等学校の美術教員として11年間にわたりまして教鞭をとり、学生の美術教育にも尽力されたほか、さいたま市美術家協会に属しまして、市展には毎年、招待作家として出品をいただいております。後進画家の育成や地域の文化振興にも長年にわたって寄与していただきました。このたび同氏の作品「古潭風声」^{こたんふうせい}に対しまして、日本芸術院から、平成28年度の日本芸術院賞が授与されました。

次に、「市政功労賞」は、市の公益の増進に寄与、また市政の振興発展に尽力され、その功績が特に顕著である方に対し贈呈するものでございます。平成16年から実施いたしまして、こちらも今年度で14回目になります。昨年度までに552名及び21団体の受賞者がおります。なお、旧市での受賞者も145名おります。

今年度は、地方自治、保健・福祉、消防・防災、教育・文化・スポーツ、寄附功労の各分野におきまして、21名及び1団体の方々に贈呈いたします。今年度の受賞者は、お手元の資料のとおりでございます。

文化賞、市政功労賞の表彰式につきましては、日程といたしまして平成29年10月(25)日水曜日午前10時からホテルブリランテ武蔵野において執り行いますので、皆様には取材方よろしく申し上げます。

また続きまして、今回2名の方に市長特別賞を贈呈いたします。まず、お一人目でございますけれども、旧浦和市の出身の藤光謙司さんです。先日行われました世界陸上競技選手権大会男子の4×100メートルリレーの決勝におきまして第4走者を務め、銅メダルを獲得されました。

また、お二人目は県立大宮東高等学校の出身の奥原希望さんに贈呈いたします。先日行われました世界バドミントン選手権大会決勝におきまして、日本人初となる金メダルを獲得されました。お二人とも世界選手権での活躍は市民に大きな感動と勇気を与え、本市のスポーツ振興やスポーツを活用したまちづくりに多大な貢献を果たしてくれました。市長特別賞の贈呈は、表彰式とは別にご本人側と調整の上で個別にお渡しをしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議題1の説明は以上でございます。

市長発表：議題2『サイクルサポート施設「さいクルステーション」を募集します』

続きまして、議題2、サイクルサポート施設「さいクルステーション」を募集しますについて説明いたします。

本市では、平成28年3月に「さいたま自転車まちづくりプラン～さいたまはひと～」を策定しました。本プランでは、「たのしむ」、「まもる」、「はしる」、「とめる」という4つの視点から施策を検討し、さまざまな事業を推進しております。特に本市には、荒川サイクリングロードや緑のヘルシーロードといったサイクリングコースがあり、多くの方がサイクリングを楽しんでいます。そのため、本市でも市民の皆様にサイクリングをより楽しんでもらうための環境づくりといたしまして、レクリエーションルートの整備を重点的に掲げ、この事業を推進しているところでございます。

しかし、このサイクリング環境が整いつつある一方で、市内には、自転車利用者が気軽に立ち寄り、また休憩できる場所が少ないという課題もございます。特にスポーツタイプの自転車は、スタンドがないために、専用のラックがない施設には駐輪ができないということもございまして、市内で休憩しようという人が少ない現状にございます。

そこで、解決策の一つとして、「さいたまはひと」重点方策の一つでありますサイクルサポート施設の整備を実施いたします。このサイクルサポート（施設）とは、自転車利用者向けのサービスを提供する施設でございまして、区役所や体育館など公共施設のほかに、飲食店や自転車屋さんなど民間施設を本市が認定して整備をしていくものでございます。

施設のサービス内容といたしましては、バイクラックを設置してスポーツタイプの自転車も訪れやすい環境をつくっていただくほか、自転車の利用者が休憩できる場所を提供していただく、あるいはトイレや空気入れ、工具などの貸し出しを行っていただくなど、サイクリストのサポートを行っていただく場所になります。そのほか、店先などにのぼり旗やステッカーを提示していただきまして、自転車利用者を積極的に受け入れていく施設であるということをごPRしてもらいたいと考えております。また、施設規模によって全てを網羅することができない可能性もあるために、その際はできる範囲で対応してもらうことになります。

なお、サイクルサポート施設は計画上の名称で、募集の際は「さいクルステーション」という名前で展開していきたいと考えております。

また、本事業によって期待される効果でございますけれども、自転車利用者の利便性が向上するというのが1つ、そして自転車利用者に優しい自転車のまちさいたまとして魅力を発信することができるということが2つ目、そして3つ目といたしましては、施設にとっても自転車での訪問者が増えるために、売り上げの向上にもつながると考えております。

施設の整備は、事業者が市に応募し、業務内容等を審査した上で、サイクルサポート施設として認定をさせていただきます。既存の施設を認定するもので、市で新たに建築するというものではございません。もし工具やバイクラックの用意がない施設につきましては、数に限りはございますけれども、市の備品を貸出することができます。また、認定後は市報や市のホームページ、またSNS等で広く発信するほか、利用者がSNSで投稿することでさらなる広がりも期待されているところでございます。

募集につきましては、平成29年10月2日月曜日から開始いたします。市のホームページに応募用紙、また募集要項を掲載するため、用紙に記載していただきまして、持参、郵送、ファクス、メールのいずれかの方法で提出をしていただきます。詳しくは、自転車まちづくり推進課が事務局となりますので、お問い合わせいただきたいと思います。

議題2の説明は以上でございます。

○ NHK

ありがとうございました。

市長からのご説明について、各社さん、質問をお願いします。

議題2に関する質問

○日本経済新聞

サイクルステーションなんですけれども、市内の公共交通には既にこういうバイクラックがあるようなところというのは結構あるんですか。

○ 市 長

これからです。

○日本経済新聞

同時に公共施設の区役所とか、そこにも整備するし、民間にも……

○ 市 長

あわせて民間の施設も募集をさせていただくと。

○日本経済新聞

スポーツタイプの自転車のバイクラックというのはマストなんですか。それがついていないといけないと。

○ 市 長

基本的には、一部スタンドをつけているサイクリストの方もいらっしゃる

いますが、スタンドがついていない自転車に乗られている方が多いもの
すから、バイクラックは必需品ということになるのではないかと思ってお
りますので、持っていない場合にはこちらで貸出などを行わせていただき
ます。

○日本経済新聞 市内で何カ所ぐらいステーションを設置したいという目標はあるんでし
ょうか。

○市 長 今のところ、総合振興計画で、大体毎年、これは最低ということですが
れども、公共施設以外のところを5カ所ずつを目標にしております。これ
以上手を挙げていただければ、もちろん5カ所以上しないということでは
ございません。

○日本経済新聞 初年度の目標は5カ所ということなわけですね。

○市 長 そうです。

○NHK ほかにご質問いかがですか。

○読売新聞 読売新聞です。

先ほどの質問に関連して、今年度中の5カ所以上の整備ということなん
ですが、それは今年度末、3月末までに5カ所以上ということによろしい
でしょうか。

○事務局 10月2日から公募をさせていただきますけれども、その段階で順次認
定していきますので、年度末までには最低5カ所以上ということで目標に
しております。

○読売新聞 あと、このタイミングで公募を始められることについて、さいたまクリ
テリウムが11月に開かれますけれども、そちらとの関連というのはある
んでしょうか。

○市 長 これまでもさいたまは一との中で、先ほども言いましたけれども、「はし
る」、「とめる」、「まもる」、「たのしむ」という4つの視点からの施策を拡
充すると申し上げてきておりますが、その中の「たのしむ」の一つが「ツ
ール・ド・フランスさいたまクリテリウム」でもあります。そして、今回
のレクリエーションルートの整備、この「さいクルステーション」の設置
もあわせて「たのしむ」という施策の一つになってまいります。私たちと
しては、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」もその一つであり
ますけれども、総合的に自転車のまちづくりを進めていこうという計画の

中で行っている施策の全体的に4つの視点から進めているものの一つということでご理解をいただきたいと思います。

- **時事通信** 今の関連で、区役所とか体育館はどの程度の整備の数を予定しているのかということと、既に決まっている施設があれば幾つか例示してほしいんですけど。
- **事務局** ただいまのご質疑にお答えいたします。
区役所とか体育館、公共施設になりますが、まず私ども最初に既存のある程度整備ができております荒川サイクリングロードを少し強力に今年度進めていきたいと考えておりまして、その荒川サイクリングロードの沿線につきましても、桜区役所でありまして桜環境センターがございます。こういったところが既に今自転車で走られている方が休憩されている施設でございますので、まずこちらを先にやらせていただいて、市内全体に広げてまいりたいと考えております。
- **時事通信** その市内の公共交通に整備する数は、どのくらいを想定しているんでしょうか。全区役所なのかとか、全体育館なのか。
- **事務局** まだ全部の区役所、体育館とは調整はできていないのですけれども、当然ながら自転車で私どもメインにしているのは、市長も申し上げましたとおり、サイクリストの方、スポーツバイクに乗られている方が中心、それとコミュニティサイクルを大宮駅周辺で展開してございますので、コミュニティサイクルを使って余暇を楽しんでいただくようなレクリエーションルートの設定を行っているところでございますので、まずそういったところから先行して始めていきたいと思っております。
- **時事通信** 公共施設では合計で、今年度ないしおおむね何カ所ぐらいつくろうとしているのか。
- **事務局** 区役所につきましては、当然ながら市内10区ございますので、10区の整備を目指していきたいと考えておりますけれども、まだ今年度何カ所とか来年度何カ所というところまでは行っていないところでございます。今後順次調整を進めていくという予定でございます。
- **時事通信** 公共施設全体ではどのくらいにしたいとかないんですか。30カ所ぐらいにしたいとか、40カ所ぐらいにしたいとか。
- **事務局** 今のところ箇所数の目標は立ててはいないのですけれども、自転車で多

く利用されていらっしゃる公共施設であれば、できる限り整備のほうは進めていきたいと考えております。

- 市長 まだ精査しておりませんが、区役所はもちろんでありますし、体育館とか主だった公共施設については、できる限り「さいクルステーション」にしていけるように。所管が分かれますので、そういった中で調整をして、主だった公共施設については、こういったものを設置していきたいと思っております。

議題 1 に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
市長特別賞は、これまでに何人の方が受賞されているのか教えていただければ。
- 市長 これまで市長特別賞については、これまで13名2団体の方々に対して贈呈を行っております。
- 埼玉新聞 追加で、主だった方はどのような方がいらっしゃるか。
- 市長 近いところから申し上げますと、平成（28）年度におきましては第155回直木賞を受賞されました荻原浩さん、それから平成26年度につきましては、プレナスなでしこリーグ2014の年間優勝をしました浦和レッドダイヤモンドレディース、それから若田光一宇宙飛行士、佐々木則夫監督ほか選手の皆さんに贈らせていただいております。

幹事社質問：今年度の東日本連携・創生フォーラムの開催概要と参加都市について

- NHK では、幹事社として代表質問させていただきます。
東日本連携・創生フォーラムについてお伺いします。今年度の開催概要が決まっていたら、現時点のもので構いませんので、教えてください。また、参加検討されている自治体もあると伺っているんですけども、昨年度と変化があるかどうか教えてください。お願いします。
- 市長 それでは、幹事社質問にお答えをしたいと思います。
さいたま市は、平成27年の北陸新幹線の延伸、また昨年の北海道新幹線の開業を契機としまして、平成27年から東日本の各新幹線の沿線自治体の首長さんにご参集をいただきまして、東日本自治体の連携による地方創生及び地域の活性化に向けたフォーラムを開催しております。

第1回目は17の自治体、第2回目は18の自治体が参加をされました。今回3回目ということになりますが、第3回目の東日本連携・創生フォーラムにつきましては平成29年11月1日水曜日、パレスホテル大宮におきまして開催をする予定となっております。

これまでご参加をいただきました計20の自治体に加えまして、今年度から栃木県の小山市と長野県の上田市にもご参加をいただく予定となっております。詳細な議題あるいは各都市の出欠状況については、現在調整中でございます。もう少し具体的な内容につきましては、次回の10月26日の記者会見で発表させていただきたいと考えております。

なお、今回新たに参加をいただく上田市の母袋創一市長さんが来週の9月25日月曜日にさいたま市役所にお越しになる予定となっております。上田市は、東日本連携の趣旨に賛同いただきまして、今回初参加ということになります。

また、上田の農産物を広く知ってほしいという思いがございまして、来週9月30日の土曜日、また10月1日の日曜日には東日本連携推進協議会が行っております軒先マルシェにおきまして、5月に降ひょう被害を受けた「落ちないリンゴ“信州上田合戦りんご”」などの農産物を販売する予定でございます。

上田市の母袋創一市長の表敬訪問及び軒先マルシェにつきましては、改めて資料提供させていただきたいと思っておりますので、また取材のほうもよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○ NHK

ありがとうございました。

代表質問の説明に関してご質問のある方、各社さんお願ひします。

幹事社質問に関する質問

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

フォーラムに関してなのですけれども、今回の話し合いのテーマですとか大まかな方向性みたいなものが決まっていたら教えていただけますでしょうか。

それともう一点、第1回からだったかと思うのですが、大宮にサポートデスクといいますか、東日本連携センターをつくってほしいということ

お声があったかと思うのですが、その計画について進捗を教えてくださいませんか。

- 市長 それでは、今回の議題案につきましては、先ほど申し上げましたとおり今詰めている段階でございますので、もう少しお時間を頂戴したいと思いますが、これまで議論してきたものについて実施をする準備といたしますか、話し合いなどもしておりますので、そういった進捗状況であるとか、あるいはその中で議論されてきたことなどについての議論ということになると思います。

それから、(仮称)東日本連携支援センターの現状についてでございますが、第1回の東日本連携・創生フォーラムで広域拠点機能として、東日本の地方創生に向けた連携拠点、情報発信拠点の設置検討の方向性が示されました。昨年の第2回のフォーラムにおきまして、連携拠点の整備についてご賛同をいただきまして、事業を推進しているところでございます。

詳細については、11月1日の第3回東日本連携・創生フォーラムで発表させていただきたいと思っております。

- 埼玉新聞 具体的な場所とかも、そこでお話しいただけると。
- 市長 場所については大宮駅の東口に設置をしようということと、あと機能については「シティプロモーション機能」と「B to B」、いわゆる企業間取引、また「交流機能」を設置するというところで、方向性についてはおおむね決定をしていると考えてございます。

- 時事通信 時事通信です。
- 今の関係で、去年なんかから広域の観光ルートをつくろうという話が出ていたと思いますけれども、その進捗と、上田、小山が参加ということなんですが、それぞれどういうところをアピールポイントに参加してくるようなイメージになるのでしょうか。

- 市長 まず、最初のご質問についてでございます。「東日本の広域周遊ルート」についてでございますけれども、この現状について申し上げますと、第1回目のフォーラムで、広域観光ルートとして、旧来のゴールデンルート、どちらかというところ、これは西日本に外国人観光客の皆さんが行ってしまうということがあって、新たに東日本の広域観光ルートを設置しようと、東日本のゴールデンルートをつくろうという方向性が提案され、そして合意を

したところをごさいます、昨年の第2回フォーラムで2020年東京オリンピックを当面の目標としまして研究会を立ち上げ、スタートさせることと決定をしました。

昨年12月に研究会を発足させまして、「北海道・東北エリア」と「上信越・北陸エリア」の2つのプロジェクトチームを設置しまして、今検討を進めているところをごさいます。これも詳細については、11月1日の第3回東日本連携・創生フォーラムで、こういったことに取り組んでまいりますという発表は、このときにさせていただきたいと考えております。

それから、後者の質問は、担当のほうからお話をさせていただきたいと思っております。

- 事務局 今ご質問をいただきました小山市と上田市のそれぞれのセールスポイントというお話かと思っております。直接伺っているわけではないのですが、上田市につきましては、先ほど市長からも報告をさせていただいておりますが、農産物のPRと、商材を売り込むという期待をしているのだろうと考えております。

また、小山市につきましては、従前栃木県内、宇都宮市、那須塩原市とも連携をしているということもございまして、そういったご関係もありまして、今回から参加をされると伺っているところをごさいます。

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
ちよつと確認なんですけれども、今回の参加自治体数というのは、さいたま市を入れて22ということ。

- 市長 出席ではなくて、参加をしている自治体数という意味ですよ。

- 埼玉新聞 はい。

- 市長 それでいうと、さいたま市も含めて22。

- 埼玉新聞 22市町村。

- 事務局 (22)市町です。

- NHK そのほかよろしいですか。

それでは、ほかに質問がある方はお願いします。

その他：衆議院解散と新党結成について

- 読売新聞 読売新聞です。

先日衆院の臨時国会での冒頭解散が報道されましたけれども、そちらに

関する市長の受けとめと、あと新党が若狭衆院議員ですとか細野衆院議員が結成を近くされるということですが、そちらに市長選で清水市長を応援されていた行田邦子参院議員も前向きに検討していらっしゃるということで、そちらに対する期待、見解などあればお伺いできればと思います。

あと、渡辺喜美参院議員もくち替えをして、今回前向きに検討されているということで、そちらに関しても受けとめなどあればお伺いできればと思います。

○ 市長 まず、衆議院の解散総選挙につきましてでございますが、安倍総理が28日招集予定の臨時国会冒頭にも衆議院の解散に踏み切る方針を固めたという報道については承知してございます。

国政に関することでございますけれども、衆議院の解散総選挙ということになりましたら、本市も限られた時間の中で、まず選挙の事務を万全の体制で準備し、また執行する責任がございます。そういった方向が出ておりますので、それに向けて準備ができる範囲の中でまずは進めていくということになろうかと思っております。

それから、行田参議院議員の件でございますけれども、私も、きょう朝新聞で読みまして、急に知ったところでございまして、詳しい状況を把握しておりませんので、現時点ではコメントは控えたいと思います。

また、渡辺喜美さんのくち替え等についても、まだ事実関係がはっきりしておりませんので、これらについても恐縮でございますけれども、コメントは控えさせていただきたいと思います。

○ 読売新聞 追加でお願いしたいのですが、まだ現時点ではきちんと決まっていないうことなのですが、もし新党に入られるということであれば、そういった動きは清水市長としては歓迎しているのか、それとも否定的な見方をされるのか、どちらでしょうか。

○ 市長 現時点としては、どういう政策を掲げて新党を結成されるのかということが、まだはっきり見えていないということがございますので、現時点で錦の御旗といいますか、どういう政策を実現することを目指して、どういう社会をつくっていくということを旗印にして党を結成されるのかということがまだわかっておりませんし、またそういったことがしっかり表明されないと、選挙互助会的なイメージになってしまうということになるのだ

ろうと思っておりますけれども、いずれにしましても新しく党をつくる以上は、国民の皆さんに何を目標にする政党なのか、あるいはどういう政策を目指していくのかということをしかりとご説明をいただき、そういったものをベースに、どういう方々が結集されるのかということになるのだろうかと思っておりますが、今のところそれぞれ誰と誰が入りそうだという話だけでございますので、現時点では何ともコメントしようがないという感じがしております。

- 時事通信 冒頭解散の報道ということではあるのですが、通常国会のほうもかなり強引に閉じた中で、その後で内閣改造ということで、仕事人内閣というようなことを言っているんですが、その中で冒頭解散ということであると、国会も開かれずに、安倍首相のいう説明責任とか、加計学園問題はじめ、主要な問題の説明責任なり丁寧な説明ということには、なかなかないのかなというふうに思うんですが、その辺については市長はどのように考えますでしょうか。

- 市長 解散のタイミングをいつにするかは、総理の専権事項でございますので、その判断がそれぞれあるのだらうと思います。ただ、現時点では北朝鮮をめぐる国際情勢が緊迫をしていく中で、政治的な空白が生まれるということについては危惧しているところでもあり、また何をもって解散するのか、争点にして解散するのか、大義として解散をするのかということについては、今現時点で十分示されておられませんので、そういったことをきっちり総理みずからの口でご説明をいただきたいと思っております。

その他：国際芸術祭について

- 朝日新聞 朝日新聞と申します。
トリエンナーレというか、国際芸術祭について伺いたいのですが、7月と8月の経営戦略会議で市の考え方として開催時期と、あとどういうことを大事にするか、例えば地域の活性化とか教育分野との連携とかという考え方を経営戦略会議の中で定められたところだと思っておりますけれども、それを踏まえて改めて時期、国際芸術祭の市長の意欲と、こういうものを目指したいというのが現時点でありましたら、ぜひ伺いたいと思います。
- 市長 前回の開催状況を踏まえまして、次回の国際芸術祭の開催につきましては平成29年7月26日及び8月23日の2回にわたる都市経営戦略会議

におきまして、検討の方向性について審議をして、課題を整理したところ
でございます。

その中で、開催概要については、開催時期としては東京2020大会文
化オリンピック（文化プログラム）として実施をして、東京2020大
会の開催都市として機運の醸成に貢献するために、2020年の3月の中
旬から5月の中旬に開催することとしたいと考えております。

また、会場につきましても、開催エリアをある程度集約化することによ
ってスタッフの配置の削減につながったり、また運営費の圧縮にもつなが
るといことがございますので、大宮区役所周辺地区の1エリアと、彩の
国さいたま芸術劇場、さいたま市文化センターの2会場で実施すること
としたいと考えております。

また、ディレクターについては、数ある国際芸術祭の中で、さいたま市
としては「共に創る、参加する芸術祭」ということで、このさいたま市の
独自性を高めていきたいと考えておりますので、その中で広く企画提案方
式によってディレクターを公募していきたいと考えております。

また、事業規模としては第1回の経験を踏まえまして、芸術祭としての
質量を確保しつつ、会期の短縮、あるいは会場を集約することによって事
業費を少し圧縮をして、5億円から6億円程度の事業費を想定している
ところでございます。

○ 朝日新聞 ありがとうございます。概要今詳細にご説明いただいたんですけど
も、何か市長としての思いのようなものってございますか。

○ 市 長 今芸術祭が、非常に各地区で増えております。

その中で、さいたま市がこれを実施する意味であるとか、あるいはその
特色づけというのは、これからさいたま市が継続的にやっていく上で大変
重要なことだと思っております。

ご案内のとおり、芸術祭はさいたま市文化芸術都市創造条例に基づいて、
その重要施策、シンボリックな事業という位置付けてやっております。私た
ちとしては、この大会をやることで文化芸術に携わる人材を育てていくと
いうことであったり、あるいはまちづくり、これは地域の振興であるとか
観光であるとか、いろいろな分野にこういったものをつなげていこうとい
う目的であったりとか、あるいは文化芸術そのものを振興させようという

ようなことも含めまして、そんな目標を持ってやらせていただいておりますので、私は1回目をやっている中で、参加する芸術祭、ともに市民の皆さん、あるいはいろいろな方々と一緒につくり上げる芸術祭ということが、さいたま市にとって大変大きな特色付けであろうと思っております。

前回、目標には達しませんでしたけれども、6万人以上の方々が参加をして一緒につくり上げてくれた芸術祭でありますので、その部分については私自身もさらにこだわっていきたく思っておりますし、あとその中でさいたま市の持っている文化資源、盆栽であるとか、あるいは鉄道であるとか、あるいは人形であるとか、そういった部分をうまくリンク、連携をさせながら進められたらよいと思っております。

その他：衆議院選挙での応援について

○ 産経新聞

産経新聞です。

衆院選に関してなんですけれども、次期衆院選で、市長のほうは特定の政党とか特定の候補者とか、応援する可能性というのはありそうでしょうか。

○ 市長

現時点では、急に今解散総選挙ということになりましたので、まだ明確な方針を固めているわけではございませんけれども、私としては基本的には、これまで市長として2期8年やらせていただいてきて、多くの現職の皆さんには大変お世話になったという思いがございます。

ただ、もう一方で、特定の党派を応援するということは余り得策ではないだろうという思いもありますので、そういった視点を鑑みながら対応していきたいと、方針を決めていきたいと、思っております。

○ 産経新聞

ということは、特定の候補の方を応援する可能性はあるかもしれないと。

○ 市長

その辺、今後しっかり詰めて方針を明らかにしていくつもりでありますけれども、基本的には市長という立場から、特定の党派に偏ることについては、余りよくはないという思いを持っております。

ただ、もう一方でこの8年間の中で、さいたま市を発展させるために、特に現職の皆さんについては大変力強いサポートやご協力をいただいているということもございますので、そういったことも含めて総合的に勘案して方針を決めていきたいと思っております。

その他：国際芸術祭について

○ NHK

ご質問よろしいですか。

先ほどのトリエンナーレに関してなんですけれども、今回はトリエンナーレという表現ではなく国際芸術祭という形に変えられるということだったと思うのですけれども、その全国的にビエンナーレですとかトリエンナーレですとか、何年に一回という形の開催が広がっている中で、あえてその名前を変えることの意味を教えてくださいたいのと、市民にとっては来年また開催される、再来年開催されると思って芸術に親しむ環境ができるのかなと思うのですけれども、その名前を変えることによって、定期的に開催頻度を変えるとか、開催頻度を落とすですとか、その辺の計画というのは変わるのでしょうか。

○ 市 長 まず、名称を変えるかどうかということについてですけれども、「さいたま国際芸術祭」に変更しようと考えております。

これは、トリエンナーレという名前自体が、やはりまだ市民の皆さんにとってなじみのない言葉ということになって、なかなか、なじみづらかったというようなご指摘などもありましたので、わかりやすい日本語表記とさせていただくこととなります。

ただ、今後頻度ということでは、私どもも基本的にはおおむね3年ぐらいを一つの目途にして開催をしていきたいと考えてございますので、いわゆる通常のトリエンナーレは3年に1度という意味でありますので、また1回目にもトリエンナーレという言葉が使われておりますので、大体3年に1度行われるぐらいのイメージとして捉えていただいても結構だと思っております。

○ NHK ありがとうございます。

その他：さいたま国際マラソンについて

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

さいたま国際マラソンについてお伺いいたします。11月の国際マラソンなんですけれども、現在のエントリー状況ですとか準備状況について教えていただけますでしょうか。

あと、今年市長はフルマラソンは走られるのでしょうか。

○ 市 長 それでは、まず応募状況についてお知らせしたいと思います。

まず、フルマラソンについてでございますけれども、定員1万6,000人のところ約1万4,000人でございます。

それから、8キロにつきましては1,500人のところ、それを上回る数をお申し込みいただいて、現時点ではある程度許容範囲内でございましたので、1,725人ということで受け付けをさせていただいております。

また、車椅子の部が19人、親子ランの部が745組、1.5キロの部が395人、それから2時間チームランの部が131組となっております。

基本的には、ほとんどは昨年並みか、あるいはチームランの部についてはかなり増えたと考えております。

私自身、今回はフルマラソンには参加をしません。2時間のチームラン、前日のファンランに出場する予定でございます。

あわせて今回は多くのボランティアの皆さんにご協力をいただいておりますので、ボランティアの皆さんの様子といいますか、激励させていただきながら、大会の運営状況についてしっかりもう一回把握をしようと、今年を考えているところでございます。

○ 埼玉新聞 ありがとうございます。

フルマラソンが1万6,000人のところが1万4,000ということなのですけれども、これは原因はどのように分析されていらっしゃるのでしょうか。

○ 市長 定員に達しなかったことについては、大変残念に思っております。

現時点では、この原因についてまだ十分精査をしておりませんので、これはまた大会終了後にしっかりと分析をして、また次年度以降に改善を含めながらしていきたいと思っております。

その他：認可保育園でのプール死亡事故について

○ NHK そのほかいかがですか。

もう一点お願いします。先日市の認可の保育園で、プールでお子さんが亡くなる事故があったと思うのですけれども、いわゆる第三者委員会のようなものを今後立ち上げると思うんですが、その日程ですとか開催予定というものはどのようになっておりますでしょうか。

○ 市長 先日、大変痛ましい事故が起こってしまいまして、前回の記者会見の冒頭でもお話をしましたが、亡くなられたお子様に対して、またご家族の皆さんに対して心から哀悼の意を表したいと思っております。

先日もお話をしました第三者機関によるものにつきまして、平成29年

9月4日月曜日付で、「さいたま市社会福祉審議会特定教育・保育施設等重大事故検証専門分科会」会長宛てに諮問をさせていただきました。

現在、事務を担う子育て支援政策課におきまして、第1回目の特定教育・保育施設等重大事故検証専門分科会をおおむね10月の中旬ぐらいに開催しようということで、各委員との日程調整を行わせていただいているところでございます。

○ NHK その会議の中で、例えば市のほうから、これから事故の検証がされると思うんですけども、再発防止に向けて何か提案するのですとか、具体的に何か決まっていることってあるんでしょうか。

○ 市 長 今後、第三者委員会で諮問させていただいて、議論していただいた上でということになるかと思えますけれども、現時点では、市としても独自に調査もさせていただいておりますので、そういったことなども踏まえて審議会でご議論、状況を十分説明させていただきながら、二度と起こってはいけない事故だと思っておりますので、その再発防止に向けて全力を尽くしていきたいと思っております。

○ NHK そのほか各社さんいかがでしょうか。

ありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は10月26日木曜日、13時30分からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

午後2時18分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。